

# 2010

平成 22 年

## Japan River Restoration Network Annual Report

日本河川・流域再生ネットワーク 活動報告



一の坂川（山口県山口市）



日本河川・流域再生ネットワーク

<http://www.a-rr.net/jp/>

## ■ ビジョン (Vision)

人々の出会いと誇りに支えられた良好な水辺の保全・再生が創り出す、健全な水循環系及び歴史・文化と共存する地域社会の実現を目指します。

## ■ 使命(Mission)

日本を含むアジアにおける水辺再生の担い手の出会いの広場(横断的な連携基盤)を構築します。

## What's JRRN? JRRN とは？

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に 2006 年 11 月に設立されました。

また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時にアジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。



## JRRN's Activity 活動内容

### ネットワーク拡大

河川・流域の再生に関心を持つ人々を増やし、これまで中心的役割を担ってきた行政関係者や実務者のみならず、個人や市民団体、企業等が再生の取り組みに参画できる仕組みをつくります。

### 情報の循環

参加者が、河川・流域の再生に関する情報を提供し、必要とする人々に循環する仕組みをつくりながら、参加者の知識・技術の向上を図ります。また、これら情報を体系整理し蓄積します。

### アジアとの連携

ARRN の日本窓口として、アジア各国・地域との連携を深め、河川・流域再生に関する情報や、各国のネットワーク運営に関する課題・解決策を相互に共有できる仕組みをつくります。

### イベント企画開催

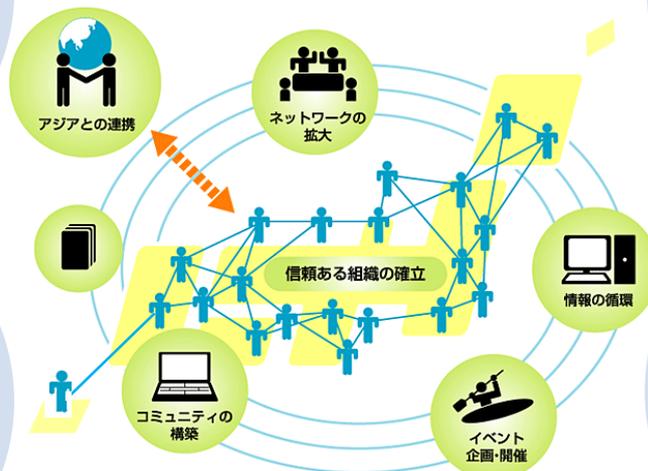
河川・流域の再生に関する意識が広く人々の間で醸成され、その価値が再認識されるよう、多様なイベントを企画・開催します。また、この機会を通じ、ネットワーク活動の活性化を図ります。

### コミュニティ構築

河川・流域再生に関わる個人・組織が自由に交流できる人の繋がりを築き、人々が各々の立場でネットワークに関与し、協働して河川や水辺の再生に取り組むことができる場を提供します。

### 信頼ある組織確立

使命の達成に向け、組織体制および財政基盤を強化し、社会的信用のある透明性の高いネットワークづくりを目指します。



## 目次 (Contents)

■ JRRN (日本河川・流域再生ネットワーク) からのご挨拶	1
佐合純造           JRRN 事務局長	
■ JRRN 活動報告	2
活動一覧 (2010年1月～2010年12月)	
情報共有基盤の整備 (ホームページ)	
情報発信及び普及 (ニュースメール・ニューズレター)	
会員交流機会の提供 (JRRN 河川環境ミニ講座)	
技術交流 (研修受入、意見交換会)	
河川・流域再生に関わる事例及び技術の調査研究	
広報活動	
■ ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) 活動報告	9
ARRN 概要紹介	
ARRN からのご挨拶 (ARRN 会長、CRRN、KRRN、JRRN)	
情報交換及び交流活動 (国際フォーラム等)	
河川・流域再生に関わる技術整備 (ARRN ガイドライン構築)	
組織運営 (ARRN 運営会議)	
■ JRRN 組織概要	16
会員構成 (2010年12月現在)	
会員サービス	



## JRRN(日本河川・流域再生ネットワーク)からのご挨拶

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）事務局長  
佐合 純造



JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）は皆様のご協力のもと2006年に発足してから2010年末で4年余となりました。JRRNでは、日本における河川・流域再生に関する情報を共有できる組織として、会員間のコミュニティを上げながら、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することをめざしています。

ご周知のとおり、河川は主に国や都道府県が管理しており、国民生活に必須である防災対策や水資源開発に重点をおいて整備や管理が行われてきました。国民の生命や財産を守り、また、資源の有効活用のためにはこれまでのように行政が主導的に行っていく必要があります。ところが、これらの整備が進み、上水道や下水道などに見られるように、多くの人が身近な川と関係なく生活できるようになって、「安全」と「快適さ」と引き替えに川が生活から離れてしまいました。しかし、川は人々の暮らしと密接なつながりをもっています。また、川が「安らぎ」や「心のよりどころ」になっている人々も多いと思います。まさに今、行政、NPO、研究者など河川の関係者だけでなく、一般の人々も川について関心をもって情報交換や提案することが必要になっています。海外の人々もいろいろな意味で日本の川にたいへん関心をもっています。

JRRNは、限られたスタッフ、財源の中で、WEBの充実、定期的なニュースメール発信やニューズレターの発行、ミニ講演会の開催など、会員のための有益な活動を行っています。また、国内の河川再生事例の収集や研究にも力を入れており、その成果は逐次ホームページなどで国内外へ公開しています。また、JRRNは中国、韓国などアジアの国々を中心にした河川再生の情報交換や協働活動を行うARRNの事務局を引き受けています。

JRRNの個人会員、団体会員は少しずつ増えていますが、河川再生を進めて普通の川を良くするためには、多くの人々の協力が必要であり、さらなる会員数の拡大が必要と考えています。

最後になりましたが、会員の皆様や関係者の方々にはこれまでのJRRN活動へのご支援、ご協力に御礼申し上げるとともに、引き続きよろしく願い申し上げます。

## JRRN 活動報告

## 活動一覧（2010年1月～2010年12月）

月 日	活動の種類	活動内容	開催場所
1月5日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年1月号(Vol.31) 発行	-
2月1日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年2月号(Vol.32) 発行	-
2月23日	交流機会提供	「第4回 JRRN 河川環境ミニ講座～川づくりと住民参画の目的、河川環境と治水、防災の接点（講師：山道省三氏）」 開催	日本（東京）
3月2日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年3月号(Vol.33) 発行	-
3月30日	広報活動	JRRN/ARRN 年次報告書 2009 発行	-
3月31日	情報共有基盤整備	ARRN 新ウェブサイト公開	-
4月5日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年4月号(Vol.34) 発行	-
4月30日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年5月号(Vol.35) 発行	-
5月11日	交流機会提供	「第5回 JRRN 河川環境ミニ講座～流域連携による河川再生：イギリス・マージ川流域キャンペーン（講師：Walter Menzies 氏）」 開催	日本（東京）
5月24日	情報発信・普及	JRRN ニュースメール 300号 達成	-
6月1日	情報発信・普及	「第4回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録」 発行	-
6月3日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年6月号(Vol.36) 発行	-
6月3日～4日	広報活動	「2010年度・河川技術に関するシンポジウム」 参加・論文発表	日本（東京）
6月10日	技術調査研究	「桜のある水辺風景 2010 写真集」 発行	-
6月11日	技術交流・支援	「中国遼寧省大連市視察団」技術交流会 開催	日本（東京）
7月5日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年7月号(Vol.37) 発行	-
7月6日	技術交流・支援	「韓国未来資源研究院」技術交流会 開催	日本（東京）
7月16日	技術調査研究	「第5回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録」 発行	-
7月29日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年8月号(Vol.38) 発行	-
8月16日	技術交流・支援	「台湾まわまちづくり視察団」技術交流会（川入街～河川整備交流座談会）開催	日本（東京）
9月6日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年9月号(Vol.39) 発行	-
9月6日	技術交流・支援	「英国リーズ大学地理学科 Paul Waley 教授」技術交流会 開催	日本（東京）
9月8日	交流機会提供	「第6回 JRRN 河川環境ミニ講座～中国の挑戦：気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて（講師：徐宗学氏）」 開催	日本（東京）
9月13日～16日	広報活動	「第8回生態水工学国際シンポジウム ISE2010」 参加・展示・論文発表	韓国（ソウル）
9月14日	交流機会提供	「第7回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」 開催	韓国（ソウル）
9月14日	交流機会提供	「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議」 開催	韓国（ソウル）
9月15日	組織運営	「第5回 ARRN 運営会議」 開催	韓国（ソウル）
10月7日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年10月号(Vol.40) 発行	-
10月11日～14日	広報活動	「第13回国際河川シンポジウム」 参加・論文発表	豪国（パース）
10月22日	技術調査研究	「第13回国際河川シンポジウム参加報告」 発行	-
10月25日	技術交流・支援	「台湾屏東県政府視察団」技術交流会 開催	日本（東京）
11月5日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年11月号(Vol.41) 発行	-
11月16日	情報発信・普及	JRRN ニュースメール 350号 達成	-
11月16日	情報発信・普及	ARRN Newsletter Vol.5 発行	-
11月17日	技術調査研究	「第6回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録」 発行	-
12月8日	情報発信・普及	JRRN ニュースレター 2010年12月号(Vol.42) 発行	-
12月21日	交流機会提供	「第7回 JRRN 河川環境ミニ講座～台湾の河川事情：台風被災からの教訓と治水対策（講師：莊曜成氏）」 開催	日本（東京）
1月7日	技術調査研究	「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議討議録」 発行	-
1月18日	技術調査研究	「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.1 別冊事例集」 発行	-

## 情報共有基盤の整備(ホームページ)

JRRN では、河川・水辺の再生に取り組む人々が、互いに役立つ情報を提供・交換できる仕組みづくりを目指し、その手段の一つとしてホームページの充実に取り組んでいます。

JRRN ホームページでは、JRRN 活動報告に加え、河川・流域再生に関連した国内外のニュース・再生事例・地域活動・専門技術・書籍・論文・遊び等々の様々な情報を日本語と英語で紹介しており、2010年12月時点で一日平均2,200件近いアクセス数(2009年同時期の約1.4倍)となっています。

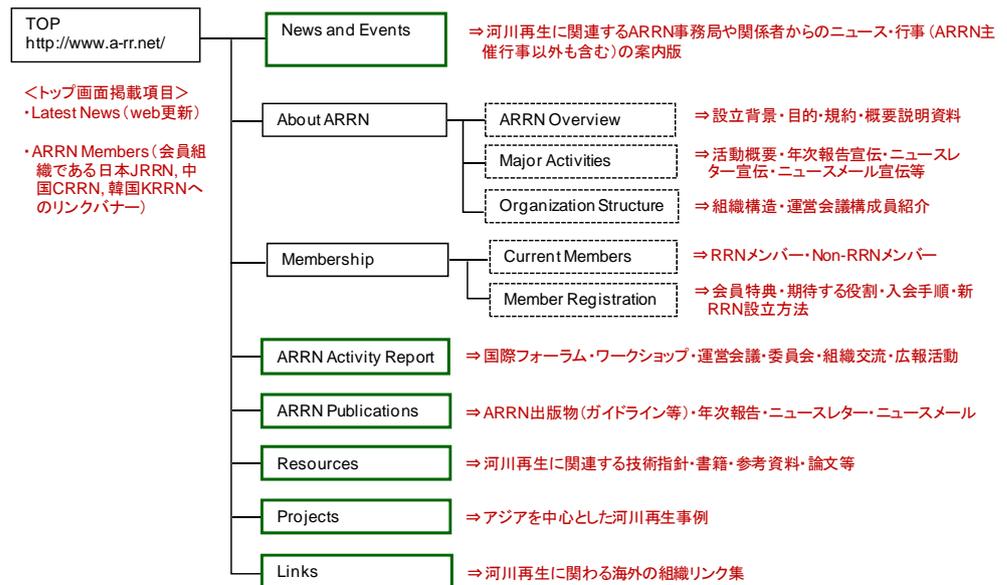
また、JRRN は、ARRN 事務局として ARRN ホームページの運営管理も担っており、2010年4月には ARRN ホームページを大幅にリニューアルいたしました。

国内外での迅速かつ恒久的な情報共有に向けては、ARRN ホームページ及びそこから繋がる各国内ネットワーク(JRRN, CRRN, KRRN)のホームページが重要な役割を果たすため、アジアで No.1 の河川分野の情報媒体を目標に、引き続き JRRN 及び ARRN ホームページの充実化を図って参ります。



<p><b>JRRN紹介</b></p> <p>JRRN の目的、活動内容、会員登録方法などの紹介</p>	<p><b>水辺の活動</b></p> <p>市民団体や学校など、様々な水辺に関連した活動報告・体験談を紹介</p>
<p><b>最近の話題・ニュース</b></p> <p>川や水辺の再生に関する最新のトピックやニュースを紹介</p>	<p><b>水辺を楽しむ</b></p> <p>水辺の遊び、スポーツ、文化など、水辺を楽しむための情報を紹介</p>
<p><b>イベント情報</b></p> <p>川や水辺にまつわるイベントや講演会などのイベント情報掲示板</p>	<p><b>水辺を見る・知る・学ぶ</b></p> <p>川や水辺の体験施設、楽しいホームページなどを紹介</p>
<p><b>情報交換・交流</b></p> <p>皆様との情報交換を目的としたページ</p>	<p><b>書籍・教材・論文</b></p> <p>川や水辺に関する知識を深めるための書籍を紹介</p>
<p><b>日本と世界の水辺</b></p> <p>国内外の水辺再生の事例、美しい水辺の写真などの情報閲覧所</p>	<p><b>人・組織のつながり</b></p> <p>国内外の川や水辺に関するリンク集</p>

JRRN ホームページ URL: <http://www.a-rr.net/jp/>



2010年4月にリニューアルした ARRN ホームページ URL: <http://www.a-rr.net/>

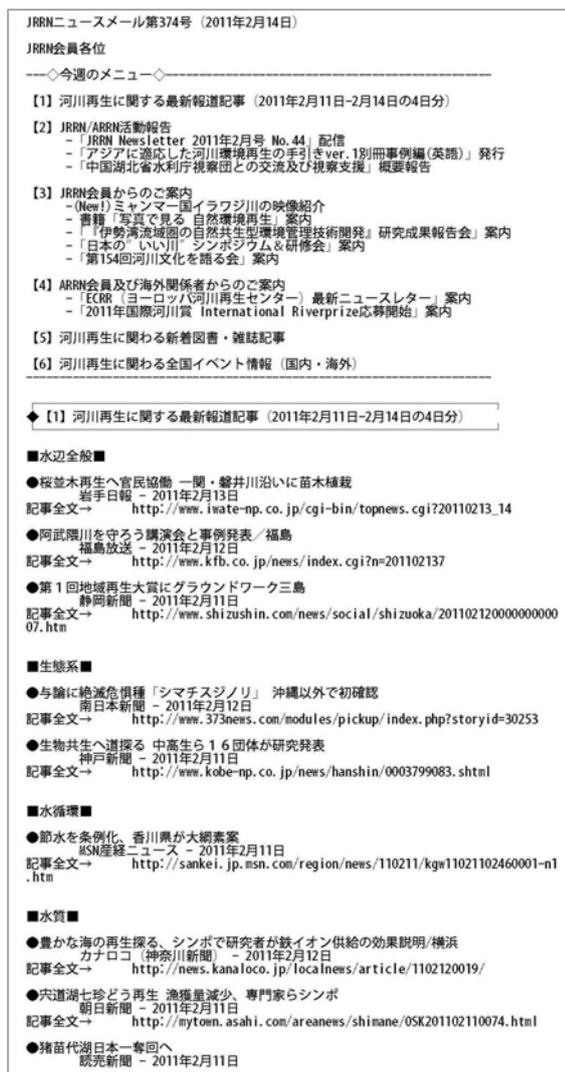
情報発信及び普及(ニュースメール・ニュースレター)

JRRN ニュースメール

JRRN ニュースメールは、週 2 回の頻度で JRRN 会員向けに発行し、2010 年は計 102 回配信しました。

主なコンテンツとして、国内外における河川・流域再生に関連するトピックニュース、JRRN 活動報告、JRRN 会員からの提供情報、ARRN 及び海外関係者からの提供情報、国内イベントや新刊書籍情報などで構成されています。

なお、すべてのバックナンバーは JRRN ホームページで閲覧することが可能です。



JRRN ニュースメールのサンプル (抜粋)

JRRN ニュースメール バックナンバーURL:  
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsmail/>

JRRN ニュースレター

過去 1 ヶ月間の JRRN 活動概要、JRRN 会員からの提供情報や寄稿記事、また今後開催される河川・流域再生関連行事等を取りまとめ、JRRN ニュースレターとして月 1 回の頻度で配信しており、JRRN 会員が共有する上で有効な手段となっています。

また ARRN 事務局として、ARRN の最近の活動内容を取りまとめた「ARRN Newsletter vol.5 (英語版)」を 2010 年 11 月に発行しました。

すべてのバックナンバーは JRRN ホームページで閲覧することが可能です。



2010 年(1月号~12月号) 寄稿記事タイトル一覧

- ・水辺からのメッセージ (No. 8~19)
- ・愛媛県 ポトムアップのチャレンジ 奥池ピオトープ (No. 42)
- ・国際シンポジウム『北東アジアの河川管理と気候変動』参加報告 (No. 41)
- ・愛媛県 鞍瀬川・過去からの贈り物 里山再生 (No. 41)
- ・愛媛県 重信川の「泉」と「霞堤」の再生 (No. 40)
- ・霧島天降川(鹿児島)のエコツアーに参加して (No. 40)
- ・台湾經濟部水利署水利規劃試験所の方々と台湾の河川を見ました (No. 39)
- ・愛媛県小田川と麓川の多自然川づくり (No. 39)
- ・現代のエジプトはアスワンハイダムの賜物? (No. 38)
- ・中国東北地方の河川風景 (No. 36)
- ・韓国四大河川再生プロジェクトと漢江の利用状況を見聞してきました (No. 34)
- ・柿田川、「水」を見つめる。「水」を探る ~第6回柿田川シンポジウムより (No. 32)
- ・第3回中国都市河川総合整備セミナー~日本の多自然川づくりを紹介 (No. 31)

※寄稿頂きました皆様、どうもありがとうございました。

JRRN ニュースレター バックナンバーURL:  
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/>

## 会員交流機会の提供(JRRN 河川環境ミニ講座)

河川・流域再生に関わる国内外の最新の知見の共有ならびに専門家と JRRN 会員との交流促進を目的に、「JRRN 河川環境ミニ講座」を 2010 年は計 4 回開催しました。

### 第 4 回河川環境ミニ講座「川づくりと住民参画の目的、河川環境と治水、防災の接点」(2010 年 2 月 23 日)

○講師：山道省三 氏  
(特定非営利活動法人全国水環境交流会代表理事)



日本における約半世紀にわたる河川での住民活動の歴史のご紹介、続いて河川や水辺における市民の活動領域について、全国の特徴的な事例とともに体系的に説明頂きました。その後、住民が川づくりに参加する目的について、約 35 年に及ぶ川との関わりの経験に基づく、地域への愛着醸成や災害回避センスの向上、また安全で快適な暮らしの実現から新たな公の形成について講演頂きました。

### 第 5 回河川環境ミニ講座「流域連携による河川再生：英国・マーヅ川流域キャンペーン」(2010 年 5 月 11 日)

○講師：Walter Menzies 氏  
(イギリス・マーヅ川流域キャンペーン専務理事)



マーヅ川のある英国リバプール市の産業革命から衰退に至る歴史説明、1980 年代前後のマーヅ川水質悪化状況について当時の写真も含め紹介頂きました。続いて、経済と社会と自然環境の再生を三つの柱としたマーヅ川流域キャンペーンについて、その目的やコンセプト、戦略とともに、25 年に及ぶ具体的な活動内容や、キャンペーン成功の鍵となる主要な要素について講演頂きました。



### 第 6 回河川環境ミニ講座「中国の挑戦～気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて」(2010 年 9 月 8 日)

○講師：徐宗学 氏  
(北京師範大学教授・水科学研究院副院長)



はじめに最新の中国における洪水・渇水の被害状況や水質悪化について写真を交えて紹介頂きました。続いて、中国における水資源管理の概要、洪水や渇水管理、水質対策などのこれまでの取組み、更には今後の中国政府の水資源管理の方向性や考え方などについて詳しく説明頂きました。

### 第 7 回河川環境ミニ講座「台湾の河川事情～台風被災からの教訓と治水対策」(2010 年 12 月 21 日)

○講師：莊曜成 氏  
(台湾經濟部水利署 河川海岸部科長)



はじめに台湾の河川や水問題全般に関わる特徴や河川管理の仕組みなどについて紹介頂きました。続いて、これまでの度重なる水災害から得られた教訓に基づく、異常気象下での河川計画や管理の考え方について、また今後の台湾が目指す治水対策の方向性について、現在推進中の事業の紹介と合わせて詳しく説明を頂きました。

## 技術交流(研修受入、意見交換会)

JRRN では、日本で培った河川・流域再生に関する知見を紹介し、また海外における取組みや課題等について意見交換する技術交流会を JRRN 会員公開行事として開催しています。

中国・遼寧省大連市水務局 (2010年6月11日)



中国遼寧省大連市水務局・大連市水利計画設計院・大連理工大学で構成する河川視察団(13名)が来日し、河川再生の取組みを中心に意見交換を行いました。

韓国・未来資源研究院 (2010年7月6日)



韓国の民間水資源政策シンクタンク「未来資源研究院」所属の研究員1名が来日し、河川再生や異常気象への取組みを中心に意見交換を行いました。

台湾・川人街～河川交流団 (2010年8月16日)



台湾から川と街づくり視察団(約40名)が来日し、河川再生や水辺からのまちづくりの取組みを中心に意見交換を行いました。

英国・リーズ大学地理学科 (2010年9月3日)



英国リーズ大学地理学科の Paul Waley 教授が来日し、日英における河川再生の取組みや住民参画などの話題を中心に、4名の JRRN 会員の方々と交えて意見交換を行いました。

台湾・屏東县政府視察団 (2010年10月25日)



台湾の最南端に位置する屏東县政府関係者20名が来日し、河川整備全般に関わる意見交換を行いました。

## 河川・流域再生に関わる事例及び技術の調査研究

JRRN では、日本国内の河川・流域再生事例の収集・分析を行うとともに、JRRN 河川環境ミニ講座等の成果を講演録として取りまとめ、国内で活動する方々に役立てて頂くことを目指し JRRN ホームページを通じて紹介しています。

### 河川・流域再生事例の収集・分析

約 200 の国内再生事例を JRRN ホームページに掲載していますが、2010 年はさらに 30 事例を追加収集し、また新たに海外の再生事例も収集整理を行いました。これらは 2011 年前半に JRRN ホームページに掲載の予定です。



JRRN ホームページ内の再生事例紹介ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/waterside/>



### 講演録等の成果蓄積及び普及

JRRN 固有の知的財産を蓄積し、広く国内外に活用頂くことを目的として、2010 年から様々な JRRN 活動の成果を web 版冊子として取りまとめ、JRRN ホームページを通じて普及する取り組みを行いました。

#### 桜のある水辺風景 2010 写真集

桜の水辺風景写真を JRRN 会員より募集し、「桜のある水辺風景 2010」として写真集を公開しました。



#### JRRN 河川環境ミニ講座 講演録

第 4 回～第 6 回の講演と質疑応答の様子を講演録として取りまとめ、開催 2 ヶ月後を目標に JRRN ホームページを通じ公開しました。



#### 国際河川シンポジウム 参加報告書

海外の最新知見・事例・仕組み等を日本国内へ紹介することを目的として、2010 年 10 月にオーストラリア国パース市で開催された「第 13 回国際河川シンポジウム」参加報告書を JRRN ホームページを通じて公開しました。



JRRN 発刊物紹介ページ:

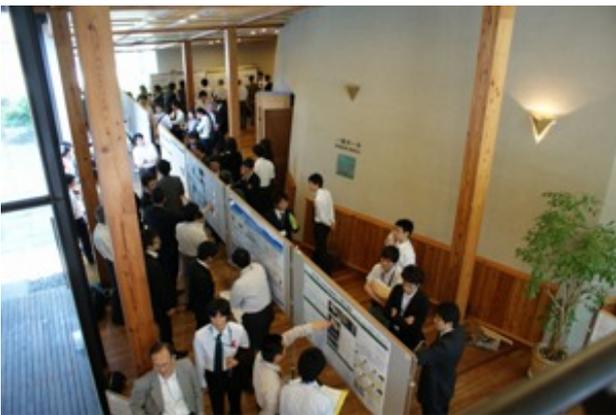
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/>

## 広報活動

日本国内及び海外に JRRN 及び ARRN の活動を広めていくことを目的に、本分野の関係者が集まる国内外行事や学術会議等に積極的に参加し、論文発表などを通じて河川・流域再生ネットワークの広報及び参加者との信頼関係構築を図りました。

### 河川技術シンポジウム 2010 (2010年6月3日～4日)

「新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術」をテーマとした「2010年度・河川技術に関するシンポジウム」が2010年6月3日(木)～4日(金)に開催され、「河川再生に向けた国際的な産学官民ネットワークの構築」と題して JRRN 及び ARRN のこれまでの活動と今後の展望について JRRN 事務局より発表致しました。本発表を通じ、シンポジウム参加者の方々より今後の活動に向けた貴重なご意見を多数頂くことができました。



詳細活動報告紹介ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/2214.html>

### 第 8 回生態水工学国際シンポジウム ISE2010 (2010年9月13日～16日)

「生態学と水工学の橋渡しをし、自然と共生した社会の新たなニーズを導く」を主テーマに、世界 30 カ国より 500 名以上の河川環境分野の専門家が集い、「第 8 回生態水工学国際シンポジウム ISE2010 (8<sup>th</sup> International symposium on Ecohydraulics 2010)」が韓国ソウル市の COEX 国際会議場にて開催されました。

「河川再生 (River Restoration)」をテーマとする技術セッションにおいて、「日本における河川再生の特徴と事例紹介 (Characteristics of River Restoration in Japan and Case Studies)」と題した発表を JRRN 事務局より行い、日本各地で進められている河川再生を目的と

した事業事例を複数取り上げ、日本における本分野の取り組みをシンポジウム参加者の方々を紹介致しました。



詳細活動報告紹介ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/2319.html>

### 第 13 回国際河川シンポジウム (2010年10月11日～14日)

オーストラリア政府系 NGO「International Water Forum」が主催する「第 13 回国際河川シンポジウム (International Riversymposium)」が2010年10月11日(月)～14日(木)にかけてオーストラリア国パース市にて開催され、分科会「都市を流れる水 (Moving water through cities)」において JRRN 事務局より「情報共有を目的としたアジア河川・流域再生ネットワークの発展について」と題した論文発表を行いました。



詳細活動報告紹介ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/2414.html>

# ARRN(アジア河川・流域再生ネットワーク)活動報告

## ARRN 概要紹介



### ARRN 設立の経緯

2006年3月にメキシコシティで開催された「第4回世界水フォーラム」の自然再生に関する日本、中国及び韓国3ヶ国合同分科会において、河川・流域再生の情報交換ネットワークやデータベースの構築、及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生ガイドライン（技術指針）の作成に向けたアジア諸国連携の必要性が提唱されました。この合同分科会での提言を引き継ぐ形で、2006年11月に東京で開催された『第3回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』の場で、「アジア河川・流域再生ネットワーク」(ARRN: Asian River Restoration Network)が日中韓の関係機関をメンバーとして設立されました。



ARRN 設立経緯の詳細紹介ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/establish/>

### ARRN の目的

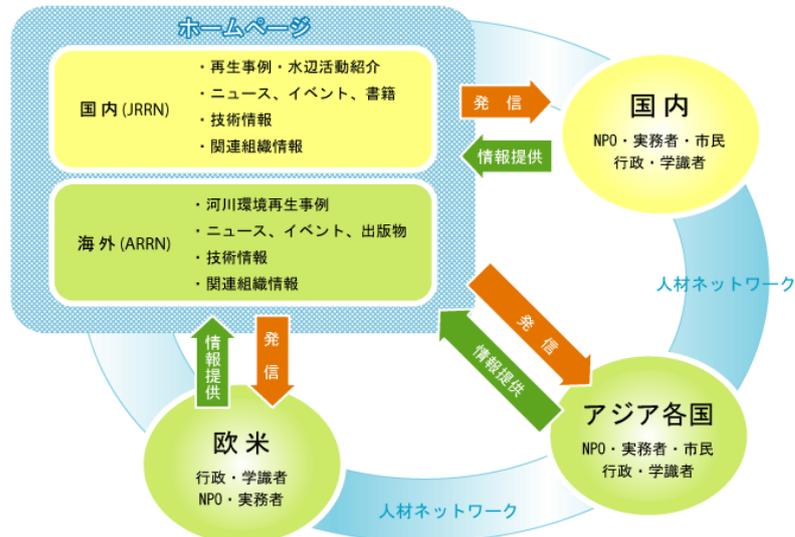
ARRN は、非政府組織としての中立の立場で、以下の二つを主な目的に、アジアの豊かな水環境の創造に寄与することを旨として活動しています。

- ホームページやイベント開催を通じ、アジア地域をはじめ世界各国の河川・水辺の再生に関する事例・情報・技術・経験等を、技術者・研究者・生態学者・行政担当者、そして市民で交換・共有する仕組みを構築すること。
- 類似した社会・自然環境を有するアジア・モンスーン地域で利用できる河川・流域再生ガイドラインを構築し、ネットワーク参加者の知識・技術の向上を図ること。

### ARRN の活動内容

ARRN は、主に次の活動を行っています。

- 河川・流域再生の関連情報の Web サイトやニュースレター等による公開
- 河川・流域の再生をテーマとした国際フォーラムやワークショップの開催
- 河川・流域再生に関するガイドラインの作成・普及
- 各国・地域内ネットワーク間での講師・専門家派遣、現地視察企画等の支援
- 河川・流域再生に関する調査研究・出版・広報活動等



**ARRN 組織体制**

■河川・流域再生ネットワーク (River Restoration Network)

ARRN は参加各国・地域のネットワークの連携で組織され、それら国・地域レベルのネットワークを「River Restoration Network メンバー (以下、RRN)」と総称します。各河川・流域再生ネットワークは各国・地域内での自由な活動が奨励されています。

■個別組織会員 (Non-RRN)

ARRN 運営に直接関与せず、ARRN 主催行事への参加やホームページの利活用、また ARRN への情報提供や ARRN 発刊物の共同制作等を担う者を「Non-RRN メンバー」と総称します。

■運営会議 (Governing Council)

ARRN の運営方針は各 RRN の代表者よりなる「運営会議」にて決定されます。運営会議は、会議で承認された議長 (会長) により総括され、ARRN の年間活動計画等の決議を行います。各 RRN 代表者は運営会議の議員となり、参加国の全議員より「Governing Council」が構成されます。

■常設委員会 (Committee)

ARRN の将来ビジョン、活動内容、知識共有基盤の整備方策等を定めることを目的に情報委員会が、またアジアの国々に適したガイドラインをはじめとする河川・流域再生のための技術方策を提示することを目的とした技術委員会が設置されています。

■事務局 (Secretariat)

運営会議は「事務局」により開催され、事務局はこのほか、ARRN の活動を遂行します。2010 年 12 月現在、JRRN (日本河川・流域再生ネットワーク) が ARRN 事務局を担っています。

**ARRN 会員(2010 年 12 月現在)**

現在、河川・流域再生ネットワークとして 3 団体、また組織会員として 3 団体で構成されています。

■河川・流域再生ネットワーク (River Restoration Network)

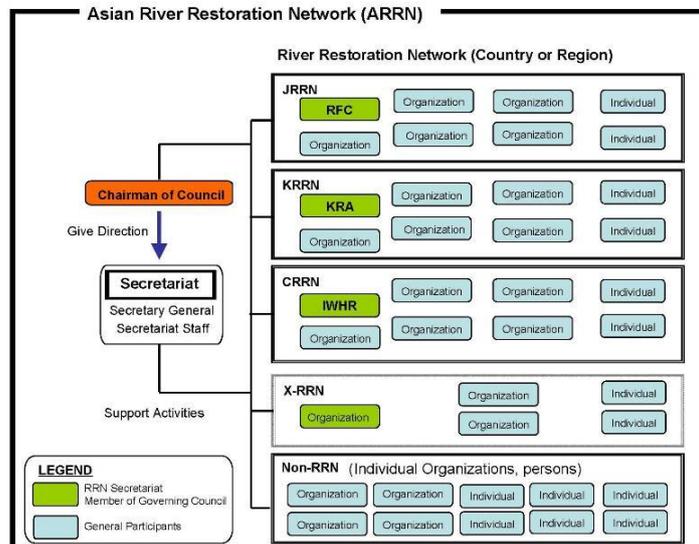
- 日本河川流域・再生ネットワーク (JRRN)
  - 【事務局】 (財)リバーフロント整備センター
  - 【会員】 個人：約460人、団体：24組織
- 韓国河川流域・再生ネットワーク (KRRN)
  - 【事務局】 韓国河川協会 (KRA)
  - 【会員】 団体：1組織 (KICT: 韓国建設技術研究院)
- 中国河川流域・再生ネットワーク (CRRN)
  - 【事務局】 中国水利水电科学研究院 (IWHR)
  - 【会員】 個人：75人、団体：10組織

■個別組織会員 (Non-RRN)

- ・タイ天然資源環境省水資源局 (Department of Water Resource, Thailand)
- ・パキスタン連邦洪水委員会(FFC) (Federal Flood Commission, Pakistan (FFC))
- ・マレーシア Envirosource SDN BHD

ARRN 団体会員一覧ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/org//1852.html>



## ARRN からのご挨拶

## ARRN (アジア河川・流域再生ネットワーク) 会長

**ARRN 会長**  
金沢学院大学大学院教授  
国際水圏環境工学会(IAHR)会長  
東京大学名誉教授



玉井 信行

アジア河川・流域再生ネットワーク(Asian River Restoration Network, ARRN)の年次報告2010(Annual Report 2010)を会員の皆様に配信する時期となりました。会員の皆様をはじめとする多くの方々のご支援に深く感謝申し上げます。

2010年には“第7回水辺・流域再生フォーラム”および“アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル(公開座談会)”を9月14日にソウルで開催致しました。これら二つの活動を、今回は国際水圏環境工学会(IAHR)が開催した第8回生態水理学国際会議と共同で実施致しました。ARRN設立時のKRRN代表者Dr.Wooが国際会議の組織委員長であったので協議を重ね、国際会議プログラムの中の特別セッションに位置付けられました。したがって、通例の発表者に加え、IAHRの生態水理学関係者も議論に参加し、議論の輪を広げることができました。ヨーロッパ河川再生センター(ECRR)会長Dr. Fokkensには、フォーラムでの講演、ラウンドテーブルでのパネリストとしても参加頂きました。

公開座談会では、ARRNの将来の活動方針、さらには、アジア地域にとどまらず、グローバルな視点をどのように構築するかを考える機会となりました。本会議の成果は、「ラウンドテーブル会議討議録(英語版、日本語版)」として、ARRNおよびJRRNホームページで公開されております。

また、ソウルの第8回生態水理学国際会議では三日間にわたりARRNの展示ブースを設けることが出来ました。日韓中の事務局が交代で運営を担当し、国際会議参加者と河川再生にかかわる技術交流を行うことが出来ました。

多くの機会をとらえて地道な活動を続けることにより、国際的な評価を高めることができると考えております。今後も、一層のご協力をお願い致します。

## CRRN (中国河川・流域再生ネットワーク) 事務局長

**CRRN 事務局長**  
中国水利水電科学研究所 IWHR



Dr. Dongya SUN

2010年、CRRNは目覚ましい発展を遂げました。ARRNメンバー共同での行事開催や河川・流域再生ガイドラインの改訂作業などを通じ、JRRNやKRRNはもちろんのこと、ECRR(ヨーロッパ河川再生センター)との関係も強化されました。

またCRRNは2010年にCRRNホームページを公開し、河川環境改善に取り組む様々な組織から多くの反響を得るとともに、CRRN会員も順調に増加し、河川再生を支える様々な組織へとネットワークが拡がりつつあります。

CRRN事務局の専門家も中国国内で活躍し、省レベルの水資源管理部局などが主催する研修会などに、講師として6回招聘されました。中国における河川生態の保全や再生のための計画や事業遂行のためのガイドライン(案)の作成にも貢献しています。

中国の太陰暦で2011年は卯年にあたり、ARRNが国際的活動基盤としてこれまで以上に大きく飛躍し、またその活動がこの上ない成功をおさめることを強く願っています。この実現に向け、2011年のARRN運営会議では、更なる改善と成長、そして新たな活力が注がれるでしょうし、河川・流域再生に関わる関係者が互いに有益な協力をし、積極的かつ協力的で包括的な関係構築に貢献することを期待しています。

最後に、こうしたARRN活動の発展に向け、日々効果的また勤勉に仕事に取り組むARRN事務局関係者の方々に謝意を表します。

### KRRN（韓国河川・流域再生ネットワーク）事務局長

**KRRN 事務局長**  
(株) Saman 副社長



Dr. Bong Hee Lee

前事務局長の Kim Changwan 氏より引き継ぐ形で、2010 年から KRRN 事務局長を拝命しました。着任間もなく不慣れなこともあって、2010 年 9 月に韓国ソウル市で開催した「第 7 回 ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」では、周到的な準備ができずに申し訳ありませんでした。

しかしながら、この国際フォーラムでは、日本、中国などからの多くの方々と意見交換し、私自身にとっても非常に有意義な機会となりました。とりわけ、約 20 年前の日本における恩師である ARRN 会長・玉井先生にお久しぶりに再会できたことはとても喜ばしい出来事でした。

最近の河川環境に目を向けますと、かつては荒廃した川が再生される事例が確実に増えてきています。これまで、私達は経済優先の視点で川というものを管理してきましたが、そうした取り組みの結果として、水質汚染や河川環境の喪失、甚大な洪水被害等の多くの問題と直面することになりました。

私達人類にとって、川が最も重要な天然資源の一つであることにはや疑いの余地はなく、これからの時代は、人間本位の視点ではなく、川の自然そのものの価値と向き合っていく必要があるでしょう。私達人類と自然が共生していくという新たな視点から、この河川・流域再生というテーマに取り組んでいく必要性を強く感じます。

現在、韓国では総事業費 1 兆 7000 億円にも及ぶ「4 大河川再生事業」を実施中であり、主要河川の多くの支川へと再生事業を広げていく計画を策定中です。河川・流域再生に関わる技術や情報を共有し、また持続可能な再生を推進していくためには、ARRN が果たす役割は極めて重要だと思いますし、この ARRN の活動に自分に関われることを光栄に思います。

KRRN はこれまでは発展途上ではありましたが、2011 年からは KRRN の組織体制をさらに充実させ、河川・流域再生の取組を支援できる体制づくりを行っていきたいと思います。ARRN の更なる発展を祈願するとともに、関係する方々に謝意を表します。

### ARRN/JRRN 事務局長

**ARRN/JRRN 事務局長**  
(財) リバーフロント整備センター



佐合 純造

ARRN/JRRN の活動は 2006 年の発足から 4 年余を経過しました。私たち JRRN は発足以来、ARRN 事務局として活動してきました。

2010 年は毎年定例となっている ARRN 運営会議を、KRRN（韓国河川・流域再生ネットワーク）、CRRN（中国河川・流域再生ネットワーク）等の協力を得て 9 月に韓国で行いました。また、ARRN 主催の国際フォーラムは ISE2010（生態水工学国際シンポジウム 2010）の特別セッションも兼ねて開催して、幅広い方々と有意義な意見交換を行うことができました。

懸案である「アジアに適応した河川環境再生の手引き（ver.1）」の改訂についても、CRRN や KRRN の協力を得ながら作業を進めています。

JRRN の活動に関しては、限られたスタッフ、予算ですが、みんなで知恵を出し合いながら、WEB の充実、定期的なニュースメール発信やニューズレターの発行、ミニ講演会の開催など、会員や多くの関係者のために役立つ活動を行っています。また、国内の河川再生事例の収集や研究にも力を入れており、その成果は逐次ホームページなどで国内外へ公開を進めています。

JRRN は現在、個人会員が約 460 名、団体会員が 13 団体で、少しずつ増加しています。事務局として会員の皆様を中心に情報提供やお互いが有意義な交流ができるようにさらに努力していきたいと考えています。

これからも各 RRN が協力して積極的な情報交換をしながら、ARRN/JRRN がさらに発展してアジアや日本の河川再生に貢献できるよう努力していきたいと考えています。引き続き、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 情報交換及び交流活動(国際フォーラム等)

### 第7回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム(2010年9月14日:韓国ソウル市)

河川・流域再生に関わる諸外国の専門知識の交換と人的交流を目的として、2010年9月14日に韓国ソウル市にてARRN主催「第7回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」を開催し、本分野の情報共有と専門家との交流を図りました。第7回国際フォーラムでは、ARRNを構成する日中韓それぞれの発表者に加え、ヨーロッパ河川再生センター(ECRR)会長にも講演を頂きました。



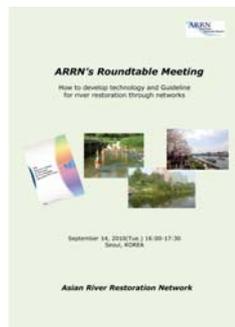
第7回ARRN国際フォーラム報告ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2326.html>

### アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議(2010年9月14日:韓国ソウル市)

アジアにおける今後の河川再生ネットワーク活動の方向性を議論することを目的に、「ネットワーク活動を通じ河川再生の技術とガイドラインを如何に向上させるか?」をテーマとした公開座談会を2010年9月14日に韓国ソウル市にて開催しました。

また、本会議の結果は「ラウンドテーブル会議討議録」(日本語版・英語版)としてJRRN及びARRNホームページを通じ公開しました。



ARRN ラウンドテーブル会議報告ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2327.html>

### ARRN 展示ブース運営(2010年9月13日~16日:韓国ソウル市)

韓国ソウル市で開催された「第8回生態水工学国際シンポジウムISE2010」において、ARRNや日中韓河川再生事例を紹介する展示ブースを設置し、JRRN(日本)、KRRN(韓国)、CRRN(中国)事務局交代でブース運営を担当し、ISE2010参加者と河川再生に関わる技術交流を行いました。



### ECRR, RRC, ARRC, TRRN 等との相互交流

ARRNでは、海外の河川再生ネットワークとも国際会議やメール等での情報交換を通じ交流を深め、河川・流域再生に関わる最新の情報の相互共有を図っております。ARRN会員以外で、以下のネットワーク事務局との継続的情報交換を進めています。



ヨーロッパ河川再生センター



台湾河川再生ネットワーク



the River Restoration Centre  
Working to restore and enhance our rivers

イギリス河川再生センター

Australian River Restoration Centre (ARRC)  
Belief - Belonging - Behaviour

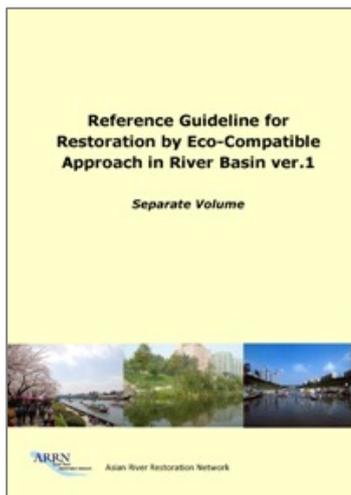
オーストラリア河川再生センター

## 河川・流域再生に関わる技術整備(ARRN ガイドライン構築)

ARRN では、「アジアにおける河川・流域再生ガイドライン(技術指針)」の入門編として、「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.1」(日本語版及び英語版)を2009年3月に発行しています。



2010年は、この「手引き ver.1」の別冊資料編として、アジア及び欧米の河川・流域再生事例の概要を紹介した「河川再生事例集(英語版)」を、日中韓の各RRN事務局及びARRN組織会員であるタイ天然資源省水資源局の協力を得て発行しました。



河川再生事例集(英語版)掲載ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2527.html>

引き続き、これまで開催したARRN技術委員会やARRN運営会議での議論を踏まえ、初版をバージョンアップした「アジアに適應した河川環境再生の手引き ver.2」の作成に取り組み、2011年秋頃の公表を目標に作業を進めています。

### ■ ガイドラインの更新目標

- アジア河川・流域再生ガイドライン更新版を年1回を目標にARRNホームページで公表する。
- 2012年3月にフランスで開催される「第6回世界水フォーラム」において、最新成果を公開・配布し、ARRN活動成果の普及を目指す。

### ■ 主な更新・改善項目(ver.2に向けて)

- 河川に関する一般的な情報(用語の定義、各国の河川の特徴等)を充実化する。
- 伝えたいことを的確に表現する質の高い(事例)写真を豊富に追加する。
- 日本・韓国・中国の河川再生優良事例を均等に追加する。また、優れた事例のみならず、各国が抱える(困っている)河川・流域再生上の課題に関わる情報・技術・写真も収集しガイドラインに反映する。
- 河川・流域再生全体の枠組み、基礎的概念(考え方)、具体方法論、及び用語を含む一般情報を含める。
- 各国の技術指針類や河川の状況が分かる文献等のリストを巻末資料として追加する。

## ARRN河川・流域再生ガイドラインについて

### (1) 背景

ARRN設立の契機となった「第4回世界水フォーラム(2006年3月)」分科会において、アジアの河川・流域再生に関わる情報共有基盤整備と合わせ、河川・流域再生ガイドライン(技術指針)構築の必要性が提言された。

**“類似した自然・社会環境を保有するアジア・モンスーン地域として、河川環境再生のガイドラインを構築することが緊急の課題である。”**

この提言に基づき、ARRNが保有するネットワークを活用し“アジア河川・流域再生ガイドライン”の作成と更新及びその普及をARRN活動の機軸と位置づけ継続的に取り組んでいる。

### (2) 目的

アジア・モンスーン地域に相応しい河川・流域再生の方法論の確立を目的とする。

### (3) 顧客・利用者

河川・流域再生活動に関わる一般市民(=非専門家)を対象として作成する。

### (4) 言語

英語を言語としてアジア河川・流域再生ガイドラインを発行する。また、各RRNが、母国語(中国語・韓国語・日本語)への翻訳、及び自国での普及の責任を負う。

### (5) 作成担当

ARRN技術委員会監修の下で、ARRN事務局及び各RRN事務局が共同で実施する。

## 組織運営(ARRN 運営会議)

### ARRN 運営会議メンバー(2010年12月現在)

#### ARRN

- ・会長：玉井信行（金沢学院大学、IAHR会長）

#### CRRN: 中国河川・流域再生ネットワーク

- ・事務局長：Dongya Sun（中国水利水電科学研究院 IWHR）
- ・情報委員：Wengen Liao, Chong Li（中国水利水電科学研究院 IWHR）
- ・技術委員：Hao Wang, Kewang Tang（中国水利水電科学研究院 IWHR）

#### KRRN: 韓国河川・流域再生ネットワーク

- ・事務局長：Bong Hee Lee（株式会社三安 Saman）
- ・情報委員：Jeong Seok Yang（国民大学）
- ・技術委員：Suk Hwan Jang（大真大学）

#### JRRN: 日本河川・流域再生ネットワーク

- ・事務局長：佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター）
- ・情報委員：伊藤一正（株式会社建設技術研究所）
- ・技術委員：白川直樹（筑波大学）

### 第5回 ARRN 運営会議（2010年9月15日：韓国・ソウル）

第5回 ARRN 運営会議が、韓国ソウル市にて2010年9月15日（水）に開催されました。

会議冒頭にて、今後2年間の任期で ARRN 会長に玉井信行教授が、また ARRN 事務局に JRRN が再任されました。続いて、昨年1年間のネットワーク活動報告の後、今後1年間のネットワーク全体での活動計画として、国際フォーラムやワークショップ等のイベント開催、ホームページの構築、河川・流域再生手引きの作成、また他ネットワークとの連携等に関し審議と意見交換を行いました。



### 各 RRN 事務局メンバー(2010年12月現在)

#### ARRN/JRRN 事務局

- 佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター）
- 木村達司（株式会社建設技術研究所）
- 沼田彩友美（財団法人リバーフロント整備センター）
- 後藤勝洋（財団法人リバーフロント整備センター）
- 和田彰（株式会社建設技術研究所）

#### CRRN 事務局

- Dongya Sun（中国水利水電科学研究院 IWHR）
- Jinyong Zhao（中国水利水電科学研究院 IWHR）
- Peng Jing（中国水利水電科学研究院 IWHR）
- Iris Zhou（中国水利水電科学研究院 IWHR）

#### KRRN 事務局

- Bong Hee Lee（株式会社三安 Saman）
- Hong Kyu Ahn（韓国建設技術研究院 KICT）
- Hong Koo Yeo（韓国建設技術研究院 KICT）



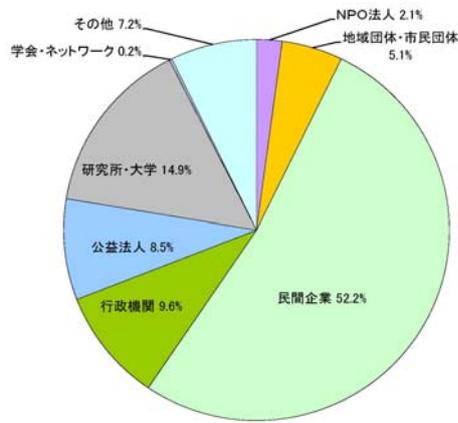
「第5回 ARRN 運営会議」開催報告掲載ページ:

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/2367.html>

## JRRN 組織概要

### 会員構成(2010年12月現在)

[個人会員] 461名



個人会員の内訳

[団体会員] 24 団体

民間企業 46%,市民団体・NPO等38%  
行政機関/公益法人等16%

### JRRN 団体会員メンバー (五十音順)

(NPO・地域団体・市民団体)

- NPO法人奥天降霧島
- 金目川水系流域ネットワーク
- たんぼ音楽事務所
- NPO法人地球環境カレッジ
- 東海タナゴ研究会
- NPO法人まちづくりネット熊取
- NPO法人水・環境ネット東北
- NPO法人水辺に遊ぶ会
- NPO法人流域調整室

(民間企業)

- 環境工学(株)
- (株)建設技研インターナショナル
- (株)コミュニティ・ディベロップメント・パートナーズ
- (有)ストリームグラフ
- (株)大洋土木コンサルタント
- (株)地圏環境テクノロジー
- (株)ディーリンク
- (株)ドーコン 水工事業本部
- ナカシマプロペラ(株)
- 日建工学(株)
- (株)吉村伸一流域計画室

(行政機関・公益法人)

- 倉敷市
- (社)日本河川協会
- (独)水資源機構
- (財)リバーフロント整備センター

## 会員サービス

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1)河川・流域再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週2回メール配信されます。
- (2)講演会等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3)国内外の河川・流域再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4)JRRN を通じて、河川・流域再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5)ARRN 加盟国内の河川・流域再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 <sup>※1</sup>	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 <sup>※2</sup>	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 <sup>※3</sup>	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 <sup>※3</sup>	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 <sup>※4</sup>	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 <sup>※5</sup>	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 <sup>※6</sup>	◎	△ <sup>※7</sup>	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 <sup>※8</sup>	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 <sup>※9</sup>	◎	×	×

上記表内の※印の詳細は JRRN ホームページをご参照下さい：<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



## 日本河川・流域再生ネットワーク

### JRRN Annual Report 2010（平成 22 年 JRRN 活動報告）

---

発行日	2011 年 3 月 1 日
発行	日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
事務局（連絡先）	〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階 財団法人リバーフロント整備センター内 Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640 E-mail: <a href="mailto:info@a-rr.net">info@a-rr.net</a> , URL: <a href="http://www.a-rr.net/jp/">http://www.a-rr.net/jp/</a>
事務局員	佐合純造（事務局長）・木村達司・沼田彩友美・後藤勝洋・和田彰

---

JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、（財）リバーフロント整備センターと（株）建設技術研究所国土文化研究所が運営を担っています。

**リバーフロント整備センター**  
財団法人  Foundation  
for Riverfront Improvement and Restoration

 建設技術研究所  
**国土文化研究所**